

児童図書研究室ニュース

2011.10.28

福島県立図書館 <http://www.library.fks.ed.jp>

No. 77

平成23年度

「子ども読書活動推進研修講座」開催中

平成23年度子ども読書活動推進研修講座が、県内4地区で順次開催されています。

この研修は、地域で子どもの読書活動を支援するボランティアの方に向け、その活動に役立ててもらうことを目的に行われています。特に今回は、学校図書館での支援活動を中心とした研修内容になっています。

講義・演習にはJPIC読書アドバイザーの児玉ひろ美氏を迎え、「子どもと読書」についての講演や「読み聞かせ」の演習を通して、子どもと本を結ぶために必要な知識と技術を学びます。また、各地区の事例発表や、その地区的公共図書館等が行っている連携活動の報告、交流会として参加者同士のディスカッションなども行います。

今後も県南地区(白河)、会津地区(会津若松)、県中地区(郡山)で行われますので、関心のある方は、ぜひご参加下さい。

東日本大震災と子どもの読書に 関わる情報 2

被災地にいる子どもたちへの読書活動支援が、様々な形で行われています。今回は、おはなしかいで読む本を選ぶ際に役立つ情報として、以下の2つのウェブサイトを紹介します。

国際子ども図書館ホームページ

東日本大震災と子どもの読書についての情報から

- ◆[savelibrary @ ウィキ](#)(現在 saveMLAK に移動)
被災地の子どもたちに届け！
-読み聞かせにおすすめの本リスト
- ◆[SLLS 学びの場としての学校図書館研究会](#)
被災地の子どもたちに届けたい本@ウィキ

笑える本や希望を見いだせる本を紹介している一方、災害を乗り越えるための知識となる本もリストの中に入っています。注意として、地震や津波など、今回の震災を思い出すようなものについては、子どもたちの置かれている状況をよく考え、身近な大人の判断を仰ぐなどの細やかな配慮を求めていきます。

特に福島県の場合、地域によって状況が違いますので、子どもたちを取り巻く環境を充分に理解して活動することが望まれます。

平成23年度 子ども読書推進研修講座

主催:福島県教育委員会



◆県北地区 ※終了

平成23年9月29日(木)～10月1日(土)

会場:福島県立図書館

◆県南地区

平成23年11月15日(火)～11月17日(木)

会場:白河市立図書館

参加申し込み期限:平成23年11月1日(火)

※締め切り期日が間近です

申し込み先:県南教育事務所

TEL 0248-23-1666 FAX 0248-23-1668

◆会津地区

平成23年12月7日(水)～12月9日(金)

会場:会津稽古堂

参加申し込み期限:平成23年11月24日(木)

申し込み先:会津教育事務所

TEL 0242-29-5483 FAX 0242-29-5494

◆県中地区

平成24年1月11日(水)～1月13日(金)

会場:郡山市労働福祉会館

参加申し込み期限:平成23年12月26日(月)

申し込み先:県中教育事務所

TEL 024-935-1488 FAX 024-935-1494

受講について

- ・原則3日間の受講となります(受講無料)
- ・定員 30名程度
- ・お住まいの近隣会場での受講をお願いします
- ・申し込みは受講地区の教育事務所へ
- 申込書を郵送またはFAXでお送り下さい

詳しくは



福島県 教育庁 社会教育課

TEL 024-521-7799

FAX 024-521-7974

【ご質問・情報はこちらへ 福島県立図書館・児童図書研究室】

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218 FAX 024-536-4787

福島県立図書館

「読書」と「科学」プロジェクト事業の展開

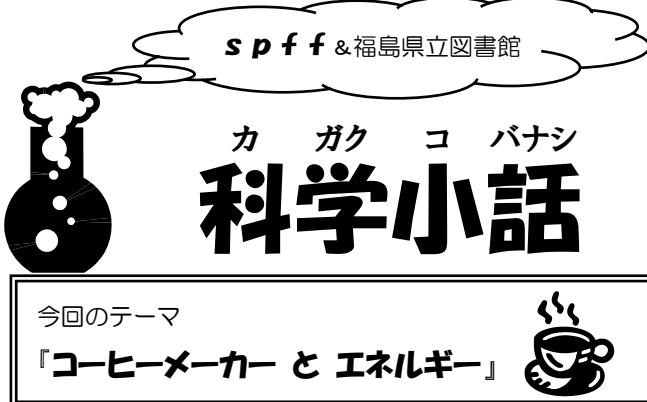
前号でお知らせしました『福島県立図書館「読書」と「科学」プロジェクト事業』は、現在以下のように展開をしています。

◆「わくわく科学」コーナーの設置

「子どものへや」に、科学絵本や子ども向けの科学雑誌を中心とした、自然科学を題材にした常設展示コーナーを設けました。

子どもたちの興味を引く実験器具なども置き、楽しく科学を学べるよう工夫をしています。定期的に、展示する本を入れ替えて、子どもたちに科学読み物のおもしろさを伝えられるように心がけています。

福島県立図書館「読書」と科学プロジェクト事業
ふくしまサイエンスぷらっとフォーム(spff)連携事業



今回のテーマ

「コーヒーメーカーとエネルギー」



◆発行物での展開

当館児童資料チームの発行物において、科学分野のコラムと、その関連図書の案内を始めました。

中高生などのヤングアダルトを対象とした『LITTLE BIG』では「本で広げよう！科学の世界」を、こちら『児童図書研究室ニュース』では「科学小話」が連載されます。

特に「科学小話」は、ふくしまサイエンスぷらっとフォーム(spff)との連携で作られるコーナーで、専門家によるコラムと、そのテーマにそった子どもの本の紹介を、「子どものへや」担当者が執筆者とのやりとりを重ねながら行っています。

コラムを楽しみながら科学の知識が学べ、また、子どものために書かれた科学の本を知るのに役立つような構成となっています。



ふくしまサイエンスぷらっとフォーム(spff)

詳しくは <http://www.spff.jp/>

このコーナーは、ふくしまサイエンスぷらっとフォーム(spff)会員の科学コラムと、福島県立図書館「子どものへや」担当者の子どもの本の紹介となっています。

【図書館・公民館図書室・学校図書館のみなさまへ】

こちらのコーナーは、館内掲示に限って、複写・切り取りをして利用することができます（点線に沿ってお切り下さい）

上記以外の目的でご利用されたい場合には、福島県立図書館・児童図書研究室までお問い合わせください。

スマートフォン用の「家電の電力使用状況を確認できるアプリ」が登場し、個人で手軽に利用できるらしい。目の前のコーヒーメーカーでコーヒーができるのを待ちながら、ふと電力について考えてみた。

お湯を沸かしているのは電気。ではその電気はどこからやってきたのか。元をたどれば発電所になる。そのうち火力と原子力発電が9割を占める。簡単に言えば両者はお湯を沸騰させ、その蒸気でタービンを回転させ、電磁誘導現象を利用して発電している。その段階でかなりのエネルギーが失われる。100%電気エネルギーに変換するのは無理なのである。送電線、変電所を通り家庭に届く頃には元のエネルギーの4分の1になるのだが。その電気エネルギーを熱エネルギーに変換してお湯を沸かす、それが電気ポットだ。もちろんそこでもエネルギーを無駄に捨てている。直接ガスでお湯を沸かしたほうがエネルギーは無駄にならない。

エネルギーは生産即消費が特徴である。電気一辺倒の社会から熱・光…など諸エネルギーの適正な利用を本気で考えていくことが重要だ。

(spffコーディネーター 岡田 努／福島大学)

【このテーマに関する 子どもの本】

◆「わたしのひかり」 モリー・バング／作 さくま ゆみこ／訳 評論社 2011. 6

電気とエネルギーをテーマに描かれた絵本。エネルギーの始まりは何なのか、それがどうやって電気になり、私たちのもとまでやってくるのかを知ることができます。

◆「なぜ？なに？よくわかるエネルギー教室 1 エネルギーってなんだ？：エネルギー基礎知識」

池内 了／著 フレーベル館 2008. 12

「エネルギーってどんなもの？」から始まり、現在の社会での使われ方やその本質的な問題にも触れています。

このコラムにもある電気エネルギーの欠点も、図を使って分かりやすく説明しています。